1 / 1 WPAT - ©Thomson Derwent

Accession Nbr :
1972-47225T [30]

Title :
Skin cream/lotion - smooths out wrinkles due ageing or sunburn

Derwent Classes :
D21 E11

Patent Assignee :
(KYOW) KYOWA HAKKO KOGYO CO LTD

Nbr of Patents :
1

Nbr of Countries :
1

Patent Number :
JP72026687 B 0 DW1972-30 *

Priority Details :
1966JP-0066446 19661011

IPC s :
A61K-000/00

Abstract :
JP72026687 B
The cosmetic contains one or more of adenosine mono-, or diphosphate, guanosine mono-, di-, or triphosphate, inosinic acid and salts thereof in cosmetic bases.

Manual Codes :
CPI: D08-B09 D09-E E05-G07

Update Basic :
1972-30

BEST AVAILABLE COPY

刊行物１

【添付書類】

4 401

⑤Int.Cl. ⑤日本分類 日本国特許庁 ⑩特許出願公告

A 61 k 31 B 0 昭47-26687

⑩特 許 公 報 ⑩公告 昭和47年(1972)7月18日

発明の数 1

訂正アリ （全４頁）

1

⑤皮膚化粧料

⑩特 願 昭41－66446

⑩出 願 昭41（1966）10月11日

⑩発 明 者 真壁修
東京都練馬区早宮3の48の12

同 新光明男
東京都中野区八島町6

⑩出 願 人 協和醗酵工業株式会社
東京都千代田区大手町1の6の1

発明の詳細な説明

本発明は化粧料基剤にプリン系ヌクレオチド類を配合することを特徴とする皮膚化粧料に関する、とくに化粧料基剤にアデノシンーリン酸，アデノシンニリン酸，グアノシンーリン酸，グアノシンニリン酸，グアノシン三リン酸，イノシン酸ならびにその塩類からなるプリン系核酸関連物質の一種以上を配合することを特徴とする核酸含有の皮膚化粧料に関するものである。

ヌクレオチド類を含む核酸並びに核蛋白は生体の生命維持に密接な関係を有し、ことに筋肉組織中では直接エネルギーを出納し各種の補酵素を介して炭化水素、脂肪、蛋白質などの基礎代謝に極めて重要な因子である事はすでに認められている。

本発明者等は上記知見を基礎にこれが利用分野の開発を目指して種々研究の結果、アデノシンーリン酸をはじめとするプリン系核酸関連物質ならびにその塩類を化粧料基剤に配合することによつて、艶のばし、皮膚の老化防止など、きわめて有用な効果をもつことを見出し本発明方法を完全するに至つた。

なお、この種の研究についてはアデノシン三リン酸（以下A．T．Pと略称する）を利用することがおこなわれ、すでに多くの臨床試験結果の報告や、艶のばし化粧料の製造法（特許第287821号）などがみられるが、しかしながらA．T．P

2

は経時的にきわめて不安定であるためその効果は余りないといつてよく、又化粧料基剤に添加する際安定剤を添加しなければならないといつた欠点を有している。

本発明のアデノシンーリン酸はA．T．Pに比較してコスト的にもかなり安価であり、又極めて安定であるが、臨床学的な面ではほとんど検討がなされていない現状にもつたが、本発明者等はアデノシンーリン酸を使用した化粧品を使つて長期間のモニター試験を実施した結果多くの新知見を見出した。すなわち皮膚の艶のばし、陽焼け、化粧くずれ、皮膚の老化防止など多くの点でアデノシン三リン酸より勝る事を見出したものである。

アデノシンーリン酸を含む核酸関連物質は一般に水溶性であるため化粧料基材に配合しても皮膚から充分に吸収されないのではないかと思われていたが、本発明ではこれら核酸関連物質を皮膚表面から塗布しても効率よく経皮吸収される事を見出した。艶のばし効果も極めて顕著であるがアデノシンーリン酸含有化粧料は紫外線に対しても安定で、皮膚の陽焼け、化粧くずれ防止などの作用も新たに発見され、又皮膚線維を賦活して皮膚の結合組織であるコラーゲン蛋白（皮下線維素）とも容易に結合して皮膚の栄養状態をも改善するため、皮膚の老化が防止され、しなやかな美肌を作るのに核酸関連物質は化粧料基剤に不可欠の要因である事が新たに確認された。

このアデノシンーリン酸並びにその塩類を化粧料基剤に配合する際、たとえばアデノシンーリン酸１種または数種の核酸を０．００１～０．５％を非イオン活性剤、脂肪酸類、その他適宜の基剤と乳化配合する。

アデノシンーリン酸は皮膚化粧料として使用する基剤の作用すなわち酸性物質やアルカリ性物質によるｐＨの変化によつても安定で絶えず皮膚機能を正常に復元させる。よつて本発明による乳剤性ローション、パック剤、又はクリーム等の如き

BEST AVAILABLE COPY

BEST AVAILABLE COPY

皮膚化粧料を使用すれば皮膚に対する柔軟性と強力性とが増加し、何等の障害もなく皮膚の老化、小皺等を防止し、かつ皮膚の栄養をも増進するので美容上極めて有用である。

以下実施例により発明の内容を説明するが、本発明の趣旨に反しない範囲の応用例は数多くあり、特許請求の範囲を制限するものではない。

実施例 1

クリーム組成

蜜蠟－10gr、固型パラフィン－4gr、流動パラフィン－43gr、セレシン蠟－4gr、無水ラノリン－5gr、トリエタノールアミン－＊1．5gr、硼砂－0．7gr、水27．3grを約70℃に加熱溶融しながらよく混和し、別にアデノシン一リン酸0．5gr、乳化剤とよく摺り合わせ乳状化した物を化粧基剤に攪拌しながら徐々に溶解混和せしめて調和する。

以上のクリーム組成の物を使つて皺、化粧くずれ、老化性などについて半年間のモニター試験を実施した結果極めて良好な結果を得た。

モニター試験には美容師10名を使つて実施した結果、対象品（無添加A．T．P添加）に比較してかなり有意である事が認められた。

モニター / 項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
対象品※	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0
A.T.P.添加※※	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	3
A.T.P.添加※※※	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	7

※対象品：核酸関連物質無添加

※※ A.T.P. 添加：アデノシン三リン酸 0．3gr添加。

※※※ A.M.P. 添加：アデノシン一リン酸 0．5gr添加。

実施例 2

乳液組成

流動パラフィン－10gr、ステアリン酸－2．0gr、乳化剤－4．0gr、水－77．9gr、アルコール－5．0gr、香料－1．0gr、防腐剤－適量、アデノシン一リン酸－100mg調製法。

1）ステアリン酸、乳化剤、アデノシン一リン酸☆香料、及び流動パラフインを混和加熱し、均一に融解し65℃前後に保つ。

2）水とアルコールを混合し、約65℃に加熱し、これに1）の混和物を攪拌しながら注入、乳化分散した後さらに強力な乳化機で均一に乳化する。乳化後は攪拌しながら約30℃まで放冷する。

以上の乳液組成の物を使つて皺、化粧くずれ、老化性などに付いて半年間のモニター試験を実施した結果極めて良好な結果を得た。（モニター10名を使用）

項目 / 添加物	化粧くずれ	小皺防止	皮膚の若返り	合計
対象品※	0	0	0	0
A.T.P添加※※	5	4	3	12
A.M.P添加※※※	5	6	7	18

BEST AVAILABLE COPY

5

※対象品：核酸関連物質無添加。
※※ A. T. P. 添加：アデノシン三リン酸100mg添加。安定剤無添加。
※※※ A. M. P. 添加：アデノシン一リン酸100mg添加。
（上表中の数字はモニターの指示率）

実施例 3

クリーム組成

蜜蝋－10gr、固型パラフィン－4gr、流動パラフィン－44gr、セレシン蝋－4gr、☆10

6

☆精水ラノリン－7gr、トリエタノールアミン－1.5gr、硼砂－0.7gr、水－27.3grを約70℃に加熱溶融しながらよく混和し、別にアデノシン一リン酸－0.3gr、イノシン酸－0.2grを乳化剤とよく擂り合わせ乳状化した物を化粧料基剤に攪拌しながら徐々に注入（溶解混和）せしめて調製する。

以上のクリーム組成の化粧料を使つて化粧くずれ、艶、老化性、腐敗防止などに付いて半年間のモニター試験を実施した結果極めて良好な結果を得た。

項目 / 添加物	化粧くずれ	小皺防止	皮膚の若返り	合計
対象※	0	0	0	0
A.T.P.※※添加	3	4	5	12
A.M.P.※※※ I.M.P.添加	7	6	5	18

※対象品：核酸関連物質無添加
※※ A.T.P. 添加：アデノシン三リン酸0.4gr添加
※※※ A.M.P. I.M.P.添加：アデノシン一リン酸0.3gr、イノシン酸0.2gr添加
（上表中の数字はモニターの指示率）

実施例 4

パック剤組成

ポリビニールアセテート部分加水分解物－25gr、グリセロール－10gr、とを均一水※に混和する。これに水－55grを攪拌しながら投入し、60℃前後で完全溶解したる後にアルコール－9.6gr、アデノシン一リン酸－0.2gr、グアノシン三リン酸－0.2grを攪拌しながら添加調製する。

以上のパック組成の化粧料を使つて皺のばし、皮膚の若返り、などについてモニター試験を実施した結果良好な結果を得る事が出来た。

項目 / 添加物	化粧くずれ	皺のばし	皮膚の若返り	合計
対象※	0	0	0	0
A.T.P.※※添加	4	5	5	14
A.M.P.※※※ G.T.P.添加	6	5	5	16

※対象：核酸関連物質無添加
※※ ATP添加：アデノシン三リン酸0.4gr添加
※※※ A.M.P. G.T.P.添加：アデノシン一リン酸0.2gr、グアノシン三リン酸0.2grを添加
（上表中の数字はモニターの指示率）

BEST AVAILABLE COPY

7

特許請求の範囲

1 化粧用クリーム、化粧用乳液、化粧水、パックなどの基剤にアデノシン一リン酸、アデノシン二リン酸、グアノシン一リン酸、グアノシン二リン酸、グアノシン三リン酸、イノシン酸ならびにその塩類からなるプリン系核酸関連物質の一種以上を配合することを特徴とする皮膚化粧料。

8